

市街地活性化計画の見直しを

井之川博幸議員が市長に要求



日本共産党の井之川博幸議員は、6月市議会の一般質問で、星野市政3期目にあたっての重要施策として、中心市街地の活性化計画の見直しについて質問しました。

井之川議員は、まず中心市街地の定義と範囲について、市長の見解をただしました。

市長は、「沼田市中心市街地活性化基本計画におきましては、上之町、中町、下之町3町に及ぶ10ヘクタールの範囲を中心市街地と位置付け」と答えました。

井之川議員は、本町3町を中心市街地として位置付け、区画整理を中心に活性化に取り組んできたが、現実には、空地が増え、商店も減り、人口も減って活性化とはほど遠い状況になっていることを指摘し、区画整理に頼る活性化ではなく、計画の範囲も広げて、市街地地区に残っている文化財や本市の特徴を生かしての活性化策に転換する必要があるのではないかと主張しました。

市長は、「3町の人口はこの5年でも72人、13%減っている。商店数および販売額についても、後継者不足、郊外への大型ショッピングセンターの出店、現在のデフレーションによる経済状況などにより、大きく落ち込んでいる」と答えたが、「土地地区画整理の事業期間の延伸の見直しを進めている」とあくまで今まで進めてきた3町の範囲で、区画整理を中心とした事業を続けていく姿勢を示しました。



区画整理で、空地になった上之町

居住人口を増やすために公営住宅の建設を

つづいて井之川議員は、活性化策の柱として街なか居住を増やすことこそ必要だと主張し、市営住宅などの公営住宅の建設を求めました。

市長は、「土地地区画整理事業内では、公営住宅に必要な敷地が確保で

大企業減税とセットの消費税増税許すな！

参院選勝利へ！ 市田書記局長が訴え！

参院選の勝利に向けて25日、市田書記局長が高崎駅前街頭演説会を行いました。



「きないので困難である」と答えたが、最初の計画では、高齢者向けの市営住宅を建設するという方向が出されていました。

街中にバスターミナルの設置を

つぎに井之川議員は、過去に中心市街地が繁盛していたときに材木町の四つ角に東武バスのターミナルがあったことなどを示し、これからの高齢化社会では公共交通としてバスの路線が大事であり、中心市街地に公共交通の拠点（バスターミナル）を設置することで、活性化につなげていく必要があると要求しました。



解体移築される生方文庫

市長は、「周辺地域と中心市街地を結ぶ公共交通機関によるアクセスは、大変重要であると考えている。今後具体的検討を行なってまいりたいと考えている」と答えました。

井之川議員は、空きフロアーばかりのグリーベル21をバスターミナルにしてはどうかと提案しました。そして、そのバスターミナルと沼田駅とを結ぶシャトルバスを運行してはどうかと提案しました。

市長は、現状の路線バスの説明をして、「現行の路線バスで十分」と変革していこうとする姿勢を見せませんでした。

2010年7月4日 No.523

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料